



清流国体の炬火リレーに朝日町滞在中の宮城県安川第一小学校の児童も参加



東日本大震災復興支援として開催された第67回国民体育大会冬季大会スキー競技会(市民文化会館で開催された開始式の様子)

ろうと、集積所となったJ Aひだ高山トマト選果場には連日、物資を持ち寄る人と、その物資を受け付ける大勢のボランティアの姿がありました。寄せられた物資の段ボール2,308箱は岩手県と宮城県に送られました。街頭募金を呼びかける姿も市内各所でみられ、被災地に届けられた義援金は8,400万円を超えました。

本格的な緊急消防援助隊の派遣となったのも東日本大震災が初です。

高山市消防本部では、発災の3月11日から延べ26人の隊員が福島県相馬郡で救援活動にあたりました。余震が続く中、隊員はヘリコプターから死角となるテトラポットの下や竹やぶの中を人海戦術で搜索活動にあたりました。

避難者を本格的に受け入れたのもこの震災が初めてです。震災後の3月16日に初めて受け入れ、着の身着のまま故郷を離れた方々に、市と市民

結びにかえて

民間の協力によって住宅などを提供。延べ57世帯152人が高山で生活しました。

震災で不自由な生活を送り、屋外で遊べなくなった子どもたちを夏休みなどに高山へ招いて、飛驒の自然を存分に満喫してもらおう取り組みも、市内の多くの団体が現在に至るまで続いています。

私たちの住む高山市は、南海トラフの巨大地震や高山・大原断層帯などの地震災害が想定されるほか、5つの活火山(焼岳、御嶽山、乗鞍岳、アカシダナ山、白山)による火山噴火の恐れ、また周囲を山々に囲まれた中山間地であることから土砂災害や豪雨災害の危険性など、さまざまな災害が考えられる地域です。災害を無くすことはできませんが、被害を最小限にとどめる「減災」は可能です。減災には市民のみなさん一人ひとりの日ごろからの備え(自助)や地域による助け合い(共助)、そして国や自治体による災害への備え(公助)が大切です。

いつ起きるか分からない災害に対して、日ごろからできることを今一度確認して、もしもの時に備えてください。そして飛驒人が受け継いできた「やさしさ」「助け合い」の心をいつまでも守り、後世に伝えていかなければなりません。

平成14年

焼岳火山噴火対策協議会設置
国府分署・上宝分署業務開始
台風23号豪雨災害



豪雨により川岸が大きく崩壊した川上川



損壊した岡本橋周辺と川岸が崩れた苔川

平成17年

市町村合併により飛驒消防組合を解散し、現在の高山市消防本部設立、
消防団再編
ハザードマップ作成

平成20年

御嶽山火山防災協議会設置、御嶽山噴火警戒レベル導入
防災行政無線デジタル同報系屋外子局整備
高山防災ラジオサービス開始

平成21年

焼岳噴火警戒レベル導入
東日本大震災(緊急消防援助隊を派遣)
白山火山防災協議会設置

平成25年

8月豪雨



崩壊した清見町の河渡橋



氾濫した江名子川



噴火した御嶽山



12月豪雪では倒木による通行止が各所で発生。停電はピーク時で15,000件でした

平成27年

広島土砂災害
御嶽山噴火
12月豪雪
乗鞍岳火山防災協議会を設置
白山噴火警戒レベル導入